

審査員評②

森嶋 拓（北海道コンテンポラリーダンス普及委員会 委員長）

今回の選考はアーティストや作品の質を評価するという性質のものではなく、私たちやレジデンス先がアーティスト自身の活動の支えになることができるのかどうか、お互いのマッチングを考慮しながら判断するという選考になったように思います。

たくさんの申請があり喜ばしい反面、できれば全員を採択したかったのですが、そもいかず申し訳なさも感じました。

書類だけで審査しないといけない難しさはありまして、書類で方針や方向性、活動詳細などを丁寧に書ききった方であったり、支援内容がイメージしやすい方、支援が必要な理由がわかりやすい方などが採択されやすかったように感じています。

ただ、選考はスッと簡単に決まった訳では無く、時間をかけて話し合っただけです。

私が今回驚いたのは、北海道内にこんなにもレジデンス先があるということです。

さっぽろ天神山アートスタジオのような専門施設もあれば、個人での受け入れもあり、ひととひとにレジデンスといっても受け入れ体制含めて多種多様であることは理解しましたが、それにしてもアーティストを支えてくれる受け入れ先がこれほどあるということは、ひとつの希望であると思いました。

AIS プランニングの助成プログラムには採択されなかったとしても、ほかの助成を受けるなりでこういったレジデンス先を利用できるのであれば、良い環境を共に作っていけるような気がしていますし、機会があったら僕自身もお願いしたいくらいです。

今回のような「お金だけじゃない支援」は、とても有意義だと感じています。

受け入れ先や地域との交渉や準備など、ひとつひとつは些細なことでも一人で抱え込むとすぐに容量オーバーになったりします。

今回不採択だった方も改めて応募できるように、是非とも継続して欲しいと考えます。